

雨中の収穫祭、松尾市長も来場

広町緑地の第6回収穫祭が11月19日(土)、雨の中で催されました。広町田んぼ、畑、森、自然観察、散策路の会が共催で、緑地で収穫した食材を使い、おにぎり、お餅、芋煮、



みそ田楽、焼き芋を用意し、畑の産物を利用するひょうたん工芸、稲藁を使う正月飾り、ミニ門松の各教室も開きました。

しかし、11時の開場時刻が近づくにつれ、雨が激しくなり、お餅班の調理機の周りに杭を打ち、木の枝とロープで結んで、急ぎブルーシートを張りました。

しかし、竈(かまど)は雨じゃらし。おにぎり、お餅、芋煮、味噌田

楽、焼き芋班の竈担当は、雨に打たれながら火を燃やし続けました。

おにぎり班は予定の500食を195食、焼き芋班も200食を45食に抑えるなど、計画を縮小。来場者は前年の511人より少なく、132人とどまりました。

鎌倉高校生19人が ボランティア参加

県立鎌倉高校の生徒たちが、去年に続きボランティア参加。野球部、アメリカンフットボール部の19人がおにぎりを握ったり＝写真右、竈を燃やしたりしました。自主保育グループ「でんでんむし」や、かまくら緑の探偵団の親たち10人余りが応援に来てくれ、いっしょに来た子どもたちも調理に加わり、販売を引き受けました。



鎌倉市が初めて、収穫祭を後援。松尾崇市長が「記憶に残る収穫祭になるでしょう」と挨拶し、4歳の長女美典(みのり)ちゃんとともに、お餅や芋煮を賞味されました。

ビジュアル + 遊び心

各会の作業報告がリニューアル

広町森の会が10月から、月2回の作業報告を一新しました。写真を大きく載せ、作業



上から時計回りに、森、畑、
田んぼの会の作業報告

報告のタイトルや日付をその写真にはめこみ、会の内部向けでなく、市民に向かってアピールするビジュアルな仕立てです。

広町畑の会は2月から「野良仕事絵日記」を発行していますが、これも写真を多く、大きく載せ、季節ごとに昆虫や野の花も写真で紹介し、会員外が読んでも楽しい報告です。

広町田んぼの会も昨年6月、「作業メニュー」をリニューアルしました。これも写真を多用し、ハードな作業の写真に「来週もやるか」「もうイヤっ」と、マンガ調の吹き出しを入れるなど、遊び心も籠めています。

「絵日記」は取れたてのダイズを



アップで=写真右、「作業メニュー」も玄米を接写して載せ、収穫の感動を、その場にいない人たちに伝える工夫も見えます。

世代交代を先触れ

私たち市民協議会の発足とともに、広町緑地の保全活動が始まって8年。第1世代が各会の作業報告を作成してきましたが、リニューアルは次の世代が担っています。活動本体も近く、世代交代を迎えるでしょう。作業報告の変化はその先触れと言えそうです。

☆☆☆

○◆○

☆☆☆

○◆○

☆☆☆

広町緑地での活動一覧 (○印は市民協議会独自の活動)

- | | |
|--------------|-----------------------|
| ◎ 田んぼ | 第1日曜、第2、3、4、5土曜の9時～正午 |
| ◎ 畑 | 第1、2、3、4日曜の9時～正午 |
| ◎ 森の手入れ | 第1、3日曜の9時半～正午 |
| ◎ 散策路 | 第2日曜の9時～、第4日曜の1時半～ |
| ○ 森のパトロール | 毎週月、木曜の9時半～11時半 |
| ○ 広町から学ぶ(観察) | 第2、4木曜の9時半～11時半 |
| ○ トイレ管理 | 土・日曜と祝日の10時～4時 |
| ○ かまくら緑の探偵団 | 第3土曜を中心に9時半～11時半 |

広町とわたし

「市民と共感する楽しさを、

湯気もくもくで表現…」

収穫祭ポスターを描いた

向田 智也さん（39歳）



雨にたたられ、肌寒い収穫祭だったが、各自治会掲示板に貼られたポスターは、「温かみがある」と好評だった。作成者の向田さんは初め「専門のイラストで」と思ったが、考え直した。

「田植え祭にも子どもたちがたくさん来て、ぼくらスタッフも楽しかった。あれを伝えるのは、やはり写真だと考えた。火と、湯気もくもく、それに市民とスタッフが一体になった餅搗き……」

忙しいけど、ポスター描きも楽しく

「ぼくにとっては、本筋だから」

川崎市郊外の住宅街で育ち、慶大文学部卒。横浜市にある印刷会社にイラストレーターとして勤務。独身。職場で最も頼りにされ、同時に、コキ使われる年齢、立場だ。その忙しい身の向田さんが、週末ごとの田んぼ作業に加わり、田んぼの会の作業報告作成を3人で分担し、そのうえ収穫祭のポスター、会場入り口に掲げる看板の作成を引き受けた。

こんな評もある。「プロは自分の職業上のスキルを、ボランティア活動で使うのを嫌がる人が多い。向田さんはポスターを、よく引き受けてくれた」

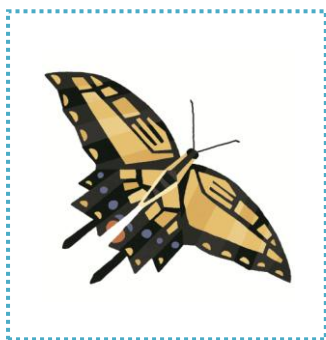
本人はしかし、「時間に追われて、辛かったけど、楽しかった」と言う。

「ぼくにとっては、田んぼにかかわる行為は全て、本筋なんです。プロの立場なんて、意識しなかった」

冬枯れのこの季節も、週に1度は、カメラを手に緑地を巡り歩いている。



「田んぼに1歩、入ったら、驚愕だった」



田んぼの会の活動に加わったのは、09年の5月だった。水生動物や昆虫の輪郭を手描きし、左右の図のようにパソコンで彩色する「田んぼ生き物図鑑」の出版を志し、材料集めのため週末ごとにカメラを持って田んぼを訪れていた。当時は、田んぼ図鑑は1年で、翌年は畑か川の——というつもりだった。

田んぼのメンバーから声がかかり、ふと作業に参加した。向田さんの内部で、何かが変わった。

「図鑑などで一応、生き物の知識は得ていたが、田んぼに入ると、畦から見たのとは、別の世界が広がった。オタマジャクシが泳いでいる。ザリガニやドジョウがいる。藻が生えている。畦から1歩の距離だが、その1歩が驚愕だった」



「責任感みたいなものを……」



稲刈り跡にもクモやトンボが

1年のつもりだった「生き物図鑑」は、3年が過ぎても、完成しないが、気にならない。

代掻き、畔付け……といったスキルをマスターする成就感。「台風で稲が倒れたら、1年の労苦が水の泡になりかねない。こんな体験をする場が、他にないですよ」と言う。

田んぼ仲間も多士済々で、「部活で文化祭の準備をしているみたいな楽しさがある」そうだ。

「なんか、ぼくもコメ作りに対し、責任感みたいなものを、持ち始めたようだ」



広町からの風

鎌倉広町の森市民協議会ホームページ

<http://www.hiromachinomori.org>

入会申し込み＝常任理事の森田（Tel.Fax.0467-32-1083）へ。
個人の年会費は正会員3,000円、普通会员1,000円。会費納入は郵便振替
（口座番号00290-2-37507、口座名「広町の森市民協議会」）で。